

## ウイルス肝炎について

### 問

一・本市のウイルス肝炎における患者数は何人ぐらいか。  
二・検査・入院・治療中の人数は何人ぐらいか。  
三・肝炎患に対する受診率向上の指針と方針は  
四・県に準じて本市の対応はどのようにするのか。

### 答

中村市長

四・肝炎治療費の問題は、大変重要と考えており、昨年十二月の定例会でウイルス肝炎対策に関する七項目の国への陳情を採択されたこと等が功を奏したのか、平成二十年度よりインターフェロン治療についての公費助成が急ぎよ議決され、今後肝炎対策基本法制定のもと、国の施策も充実してくることを期待しており、

青野 光 議員



もちろん本市としても引き続き肝炎対策の推進を図っていくので、御理解をいただきたい。

### 答

健康増進課長

一・二・本市の国保被保険者の患者は約六百十人、うち入院治療は約十人となっている。  
三・肝臓は沈黙の臓器といわれ自覚症状がないため、早期発見・早期治療が重要であり、当市では平成九年より無料で検査を実施している。また受診率の向上が重要であり、健康カレンダー、検診の案内を年度当初に各戸配布し、その後、広報誌や市のホームページへの掲載を行い、日曜検診や地域への出張などを取り入れ、受診率の向上を図っている。さらに愛媛大学医学部第三内科の指導を得て、正しい知識の普及啓発、気軽に相談できる体制を整えているが、今後一層充実させていきたいと考えている。  
また、ウイルス性肝炎は肝硬変・肝がんへと進行するケースが多く、陽性者には手帳の交付を初め、保健師の訪問など早期に確実に医療につなげるよう支援している。

## AEDについて (パート4)

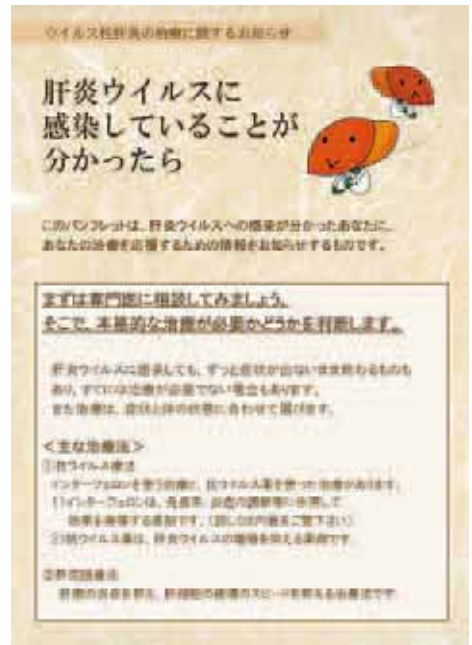
### 問

一・全幼稚園・保育所への設置を望むが、所見を問う。  
二・パッドに関し小児用・大人用二種類の購入を検討願う。  
三・市内全設置場所に表示板の作成を望む。  
四・講習会等の啓発活動が必要と考えるが、関係者の対応を問う。

### 答

中村市長

一・現在、市内主要公共施設及び全小中学校計二十三台のAEDを配置している。各幼稚園・保育所では、児童のみ



厚生労働省が作成したパンフレット

ならず多くの市民に各種行事に参加していただく機会も多く、緊急時に備えておく必要性を十分に認識している。今後、計画的にAEDの整備を図っていきたくと考えている。

### 答

総務部長

二・現在、中学校に設置しているもの以外は、すべて二種類のパッドを備えている。また今後の購入分に関しては、二種類のパッドの購入を考えている。  
三・現在、表示板を設置していない公共施設が三方所、小学校が五校、中学校が三校あるので、今後これらの施設に関しては、早急に設置していきたい。

四・職員・保護者への取扱い講習会の啓発活動に関しては、市職員対象の講習会を平成十七年から毎年計画的に実施しており、累計八十二人が受講している。今後また受講していない職員にも受講させ、早急に全員が使えるような体制にしたいと考えている。  
なお、教職員はすべて受講済みである。

保護者等の一般市民向けの講習会は、伊予消防署が平成十七年より実施しており、年々参加者が増加している。これまでに延べ七千人の参加者を数えており、今後もより多くの市民の皆さんがAEDに関する知識や技術を習得し、迅速・確実に対応できる環境づくりを更に進めていきたい。



保育士のAED講習会